

観光貸切バスの路上駐車が約6割減少！ 歩行空間でのバス待ちも減少！

～札幌都心部の混雑解消を目指す取組を夏期にも実施します～

札幌都心部では観光貸切バスの駐停車により、円滑な道路交通が阻害されていることから、「観光貸切バス乗降所」と「バス待ち空間」を設置する実証実験を行い、周辺交通及び歩行空間への影響を検証しました。また、実証実験において一定の効果を確認できたため、地域主体による同様の取組を冬期観光シーズン期間に引き続き夏期観光シーズン期間にも実施します。

取組内容

- 既存商業施設「ノルベサ」前の道路空間（市道南3条線）に観光貸切バス専用の乗降所を設置
- 乗客降車後の観光バスを観光貸切バス待機場へ誘導
- 観光貸切バス利用者のバス待ち空間を既存商業施設「ノルベサ」内に創出するとともに、公共交通案内や周辺観光情報を発信

実施期間

- 平成30年10月26日(金)から12月3日(月)の期間、実証実験として実施
- 平成31年2月1日(金)から2月14日(木)の期間、地域が主体となって実施

検証結果

- ①道路交通への効果
 - ・観光貸切バスの路上駐車が約6割減少
 - ・二重駐車が解消し、周辺エリアの渋滞箇所が7割解消
 - ・バス待ち空間の設置により歩行空間でのバス待ちが減少し、歩行空間を確保
- ②観光貸切バス利用者への効果
 - ・バス待ち空間利用者の満足度は約7割

今後の取組み

- 夏期観光シーズン期間に地域が主体となって令和元年7月25日(木)から実施

【問合せ先】

- 実験内容 札幌都心交通研究会貸切バス対策部会
事務局 札幌大通まちづくり(株) 服部 彰治 (電話番号 011-211-1185)
事務局 (一社)北海道開発技術センター 大川戸 貴浩 (電話番号 011-738-3363)

札幌市経済観光局観光・MICE推進部観光誘致・受入担当課
課長 石川 芽衣 (電話番号 011-211-2376)

- 実験制度 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 都市圏道路計画課
課長 阿部 正隆 (電話番号 011-611-0216) (ダイヤルイン)
札幌開発建設部ホームページ <https://www.mlit.go.jp/sp/>



実証実験実施概要

○実験名称	道路空間の利活用と民間活力活用による持続可能な観光貸切バス 停車のエリアマネジメント実証実験	○実験主体	札幌都心交通研究会 構成団体：北海道警察、札幌市、札幌地区バス協会、国土交通省北海道運輸局、 国土交通省北海道開発局、北海道大学公共政策大学院、民間事業者 組織、札幌大通まちづくり株式会社
○実験区間	札幌都心部（大通エリア、狸小路エリア、すすきのエリア）		
○実験期間	平成30年10月26日（金）～平成30年12月3日（月）		

【位置図】



【現状と問題】

現状：観光貸切バスの乗降場所に明確なルールがない

問題：円滑な交通の阻害

路上駐車・路上駐輪による通行阻害

観光貸切バス利用者と歩行者が輻輳

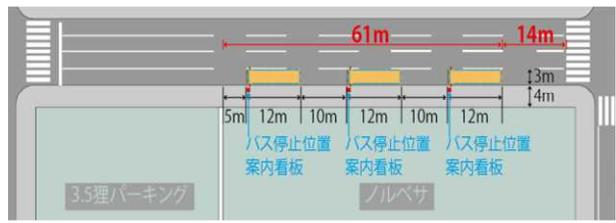
二重駐車による通行阻害



【実証実験概要と目標】

円滑な道路交通確保のため、観光貸切バス乗降所と民間商業施設と連携したバス待ち空間の創出

- ①乗降所の設置とルール化
 - 観光貸切バス専用の乗降所を設置
 - 乗降所の利用時間を原則5分以内とし、観光貸切バス待機場への案内を実施
- ②バス待ち空間の創出
 - 観光貸切バスの乗客のバス待ち空間として既存商業施設を活用
 - 多言語対応のデジタルサイネージを設置し、公共交通への案内や周辺人気スポット案内情報を発信



▲観光貸切バス乗降所の設置イメージ



▲既存商業施設を活用したバス待ち空間のイメージ

目標：円滑な道路交通の確保

①乗降所の設置とルール化

②バス待ち空間の創出



実証実験の実施状況

- ①既存商業施設前に観光貸切バス専用の乗降所を設置し、ルール化（5分以内の乗降・既存バス待機場場の利用促進）の周知を実施
- ②既存商業施設内にはバス待ち空間を創出

取組①：乗降所の設置とルール化



案内看板の設置



ルール化による停車状況

- 乗降所に案内看板を設置するとともに、道路利用者、観光事業者、交通事業者への事前周知を実施

分類	周知の対象	主な周知方法	数量
道路利用者	周辺を通行する道路利用者	看板設置	5基
	自転車利用者	フライヤー配布及び誘導	約250部
	実験実施箇所で駐停車を行う貸切バス乗務員	フライヤー配布及び誘導	約400部
	実験実施箇所で乗降を行うツアー添乗員	フライヤー配布	約100部
観光事業者	全国旅行業協会に加盟する会員企業	フライヤー送付	240社
	日本旅行業協会に加盟する会員企業		10社
交通事業者	北海道内の貸切バス事業者	フライヤー送付	258社
	北海道ハイヤー協会加盟の札幌交通圏事業者		63社
	札幌地区トラック協会加盟の運送事業者		1,045社

取組②：バス待ち空間の創出



既存商業施設を活用したバス待ち空間



多言語対応デジタルサイネージ

- 観光貸切バス利用者をバス待ち空間に誘導するために、店舗入り口に大型ポスター掲示(店舗内でバス待ちをお願い)、観光貸切バス添乗員に案内チラシ(英・中・韓)を配布
- バス待ち空間にデジタルサイネージを設置し、観光客に対して公共交通案内や周辺観光情報を発信

- 店舗入口に大型ポスターの掲示(英・中・韓)



- 添乗員向け案内チラシの配布(英・中・韓)



乗降所の設置とルール化

バス待ち空間の創出

- ・都心部の観光貸切バスの路上駐車減少による道路交通の円滑化
- ・観光貸切バスの乗客が利用しやすい環境を創出

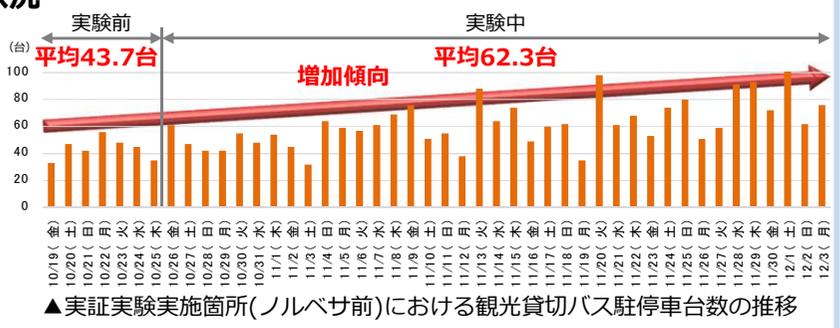
円滑な道路交通と持続可能な観光貸切バスマネジメントの実装

- 観光貸切バス乗降所では、**日平均62台の観光貸切バスが利用**。隣接エリア箇所の路上における**観光貸切バスの駐停車台数が約6割減少**。これにより、観光貸切バス乗降場を設置した**周辺エリア内の渋滞箇所(17時台)の約7割が解消**
- 一般車両の駐停車を抑制したことで、交通阻害要因となっていた**二重駐車による車線減少が解消**

効果①：路上駐停車の減少と旅行速度向上

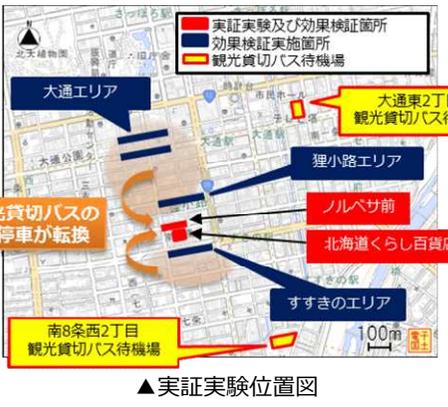
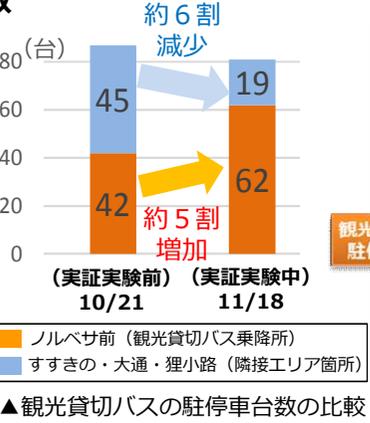
■観光貸切バス乗降所の利用状況

- 実証実験中日平均62.3台の観光貸切バスが利用
- 実証実験後半になるにつれて利用台数は増加



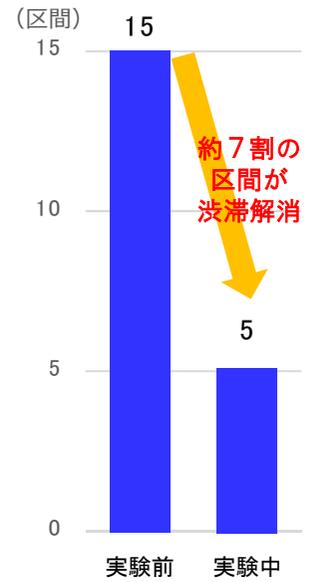
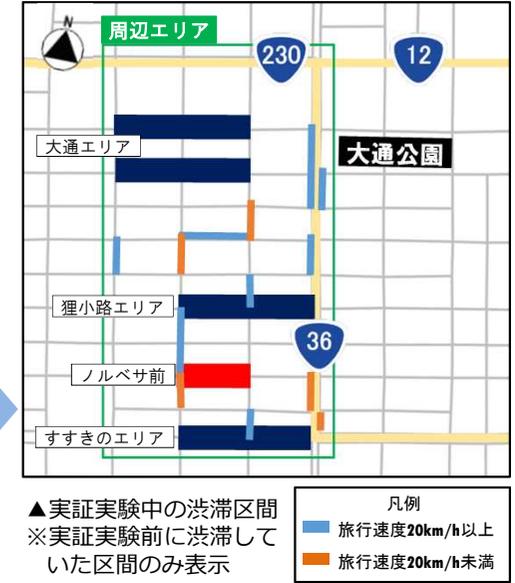
■観光貸切バスの路上停車台数

- ノルベサ前(観光貸切バス乗降所)における観光貸切バスの停車台数は、実証実験前の42台に対し62台と約5割増加
- 隣接するすすきの、大通、狸小路エリアでは、観光貸切バスの停車台数が約6割減少



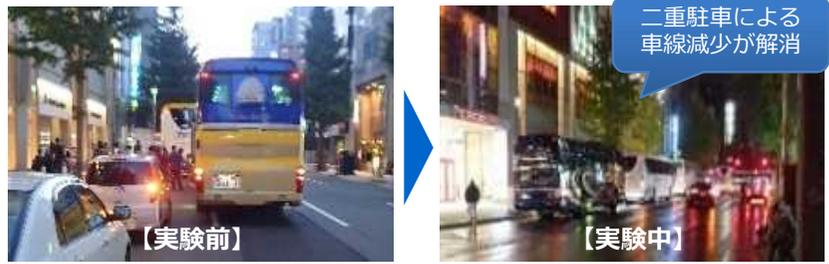
■旅行速度向上

- 効果検証実施箇所の周辺エリア(緑枠内)に着目すると、実証実験前に渋滞※1していた区間※2のうち、実証実験中は約7割(10区間/15区間)の区間で渋滞が解消
- ※1：旅行速度20km/h未満を渋滞と定義 ※2：近接する最短の交差点間を1区間とした



■二重駐車が発生状況

- 一般車両の路上駐車を抑制したことで、観光貸切バスの二重駐車が無くなり、交通阻害要因を解消



＜条件＞
 データ：ETC2.0プローブ情報
 期間：実証実験前 平成30年10月19日～10月25日
 実証実験中 平成30年10月26日～11月30日

【利用者の声】

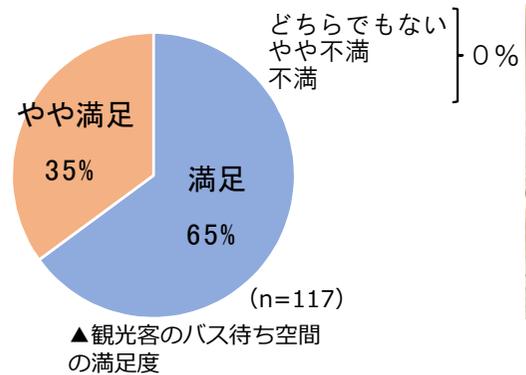
- 乗降所で確実に乗客を降ろすことができるので安心。本格運用してほしい。(バス事業者A)
- いつもは駐車場所を探し回らなければならないので、こういう乗降所があるとありがたい。(バス事業者B)

実証実験結果

- 既存商業施設内をバス待ち空間として活用することで、バス利用客の歩道上での待機がなくなり歩行空間等を確保
- バス待ち空間を設置した民間商業施設は、実証実験前と比較して、日平均の売上高で約1.1倍、客数で約1.2倍に増加
- 歩道上の駐輪車を駐輪場へ誘導したことにより、**歩行者・自転車利用者の7割が満足度向上と評価**

効果②：バス待ち空間と歩行空間の確保

- 観光貸切バス利用者が既存商業施設内をバス待ち空間として利用することで、歩行空間を確保
- 観光貸切バスを待つ観光客のバス待ち空間に対する満足度は「満足」及び「やや満足」と全員が回答



【利用者の声】

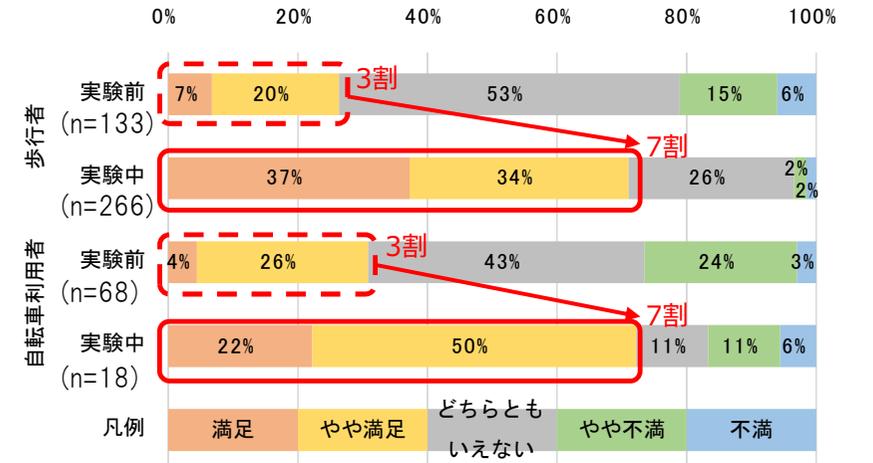
■「ノルベサ」内にバス待ち空間があり、雨風にあたらずにバスを待つことができた。(観光客)

【民間商業施設の声】

■実証実験前と比較して、日平均の売上高で約1.1倍、客数で約1.2倍に増加した。

効果③：路上駐輪の解消による通行環境改善

- 路上駐輪を抑制したことで、乗降所機能の確保および歩道上の通行阻害を解消
- 実証実験中の通行環境について、歩行者・自転車利用者ともに約7割から満足との評価



【利用者の声】

■路上駐輪がなくなり、歩きやすくて景観もよくなった。(歩行者)

冬期実験結果

- さっぽろ雪まつり期間を含む冬期観光シーズン期間（平成31年2月1日～2月14日）に地域主体で実験を実施
- 観光貸切バス乗降所は**多くの観光貸切バスが利用**、バス待ち空間も多くの観光客に利用されバス利用客の歩道上での待機がなくなり歩行空間を確保
- **冬期においても有効な取組であることを確認**

第70回さっぽろ雪まつり

- 北海道の冬を代表するイベントであり、期間中来場者数は193万4千人。
【大通会場・すすきの会場】平成31年2月4日（月）～2月11日（月）

観光貸切バス乗降所の利用状況

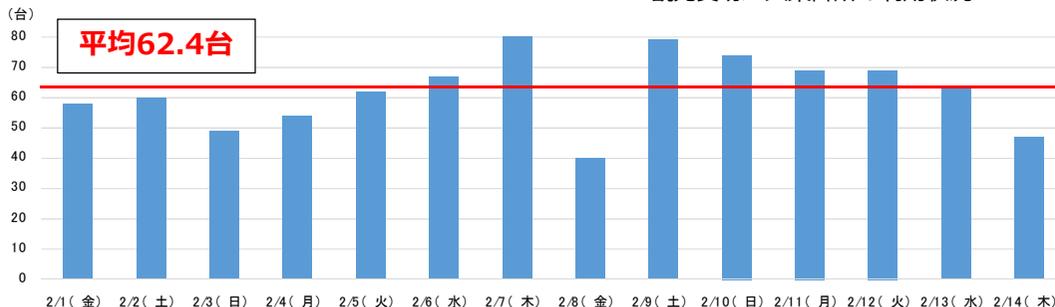
- 観光貸切バス乗降所は、冬期においても多くの観光貸切バスが利用。なお、冬期は混雑が予想されたため観光貸切バスを最大4台停車可能とする運用を実施 ※実験の実施時刻は12時から20時



▲実験位置図



▲観光貸切バス乗降所の利用状況



▲観光貸切バス乗降所の利用台数（集計時間は15時から20時）

バス待ち空間の利用状況

- 2月の札幌は屋外の気温が低くなるため、多くの観光客がバス待ち空間を利用。また、これに伴い観光客による歩道の待機も解消された。



▲歩道の通行状況



▲案内看板の設置



▲バス待ち空間利用状況

実証実験の成果

- 実証実験の実施により、二重駐車解消、路上駐停車の減少、実証実験周辺エリアの旅行速度向上等が確認され、道路交通円滑化及び地域と道路利用者に有効な取組みであることを確認
- バス待ち空間を提供した民間商業施設の日平均売上高と客数は増加しており、観光客と同施設双方に有効な取組みであることを確認
- 冬期観光シーズン期間に地域主体で同様の取組みを追加実施。観光貸切バス乗降所、バス待ち空間に多くの利用があり、冬期においても有効な取組みであることを確認



今後に向けた課題・取組み

- 本格運用に向けては、
 - ・道路交通円滑化(旅行速度の向上)が実証実験周辺エリアに限定的であったため、都心部全体での面的な展開が必要
 - ・ルール化の定着のため、モラル向上を促す方策の検討と採算性の課題解決(予約制の導入・料金収受、警備員、誘導員の配置、費用負担者・割合などのスキーム)
- 今回の実証実験を契機とし、地域、民間商業施設、行政等の関係機関の連携により、本格運用に向けた試行を夏期観光シーズン期間の令和元年7月25日(木)から実施